

## インターバンクの声（2015年9月10日）

日経平均が1343円高と歴代6位の上昇幅を記録、1990年当時の橋本龍太郎・大蔵大臣が暴落の続く株式市場へのテコ入れ策を発表した翌日に記録した2676円高の過去最大の上昇幅をはじめ歴代5位までの上昇幅はすべてバブル期に達成したもの。それだけに、昨日の日経平均の大幅反発で潮目が変わった？との見方もあり、ドル円も120円80銭付近に位置する200日移動平均を上抜け121円20銭まで上昇。加えてNYダウも171ドル高まで上昇する場面も。

しかしながら昨晚11時に発表された米7月JOLT求職件数が予想を上回る575.3万件と統計開始以来の最高を更新。先週末の雇用統計での5.1%まで低下した失業率、前月比+0.3%まで上昇した時間給賃金をはじめ、労働市場関連のデータをベースに来週のFOMCでの利上げの可能性が高まったとし、10年債は一時2.25%台、2年債利回りは2011年4月以来となる0.76%まで上昇。一方でダウは終盤にかけ下げ幅を拡大、一時272ドル安（終値：239ドル安）とリスク回避の動きに。こうしたことからドル円は200日移動平均を割り込み120円30銭割れまで反落。

本日午前に発表される中国・8月消費者物価、生産者物価次第では上海株が反落する可能性もあり、昨日の勢いは失速、あらためて120円割れの可能性も否定できないとの見方も。結果的に中国情勢と米金融政策という直面する2大テーマに市場は一喜一憂する状況に戻った可能性もあるだけに慎重な対応が求められそう。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。